

City-Region MAPプログラム(第2回)講座一覧 ～ 開講日程順 ～

講義時間は18:00～19:30、いずれもZoomによるオンライン授業（特に記載のない場合を除く）

開催日	曜日	カテゴリー	講座NO	【シリーズ名】講座名	講師（所属・役職・氏名）	講座概要	
23/8/29	火	開講式		開講講義 & 懇親会付（ハイブリッド開催）	SCI-Japan 専務理事	南雲 岳彦	16:00～17:30 開講式（含む講義）、17:30～19:30 懇親会 都内会場とオンラインのハイブリッド開催
23/8/30	水	A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A1	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ1	SCI-Japan 専務理事	南雲 岳彦	3回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説。
23/9/5	火	A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A2	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ2	SCI-Japan 専務理事	南雲 岳彦	3回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説。
23/9/12	火	A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A3	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ3	SCI-Japan 専務理事	南雲 岳彦	3回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説。
23/9/19	火	C.市民対話の実践	C2	オンライン参加型合意形成プラットフォームDecidimを活用したまちづくりの実践	一般社団法人コード・フォー・ジャパン プロジェクトマネージャー（Decidim）	東 健二郎氏	日本では2020年以降、スマートシティにおける住民参加の議論と並行して急速にオンライン参加型合意形成プラットフォームを活用したまちづくりの実践が進んでいる。本講座では、プラットフォームの1つであるスペイン・バルセロナ市発のオープンソースであるDecidim（デジディム）を紹介しながら、①オンラインとオフラインの融合、②住民参加によるまちづくりのプロセス設計、③今後の展望などをテーマに様々なセクターでの活用事例とそのポイントについて解説。
23/9/21	木	A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A5	地域価値創造の戦略と実践	FDC(福岡地域戦略推進協議会) 代表	石丸 修平氏	福岡都市圏の産学官民連携の事業創出プラットフォームであり、地域戦略の策定から推進まで一貫して行っているシンク&ドッキングである福岡地域戦略推進協議会（FDC）による、地域価値の創造に向けた戦略と実践について、福岡都市圏のまちづくり事例を紹介する。
23/9/27	水	A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A6	都市経営人材論 1	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 東京大学大学院 情報学環・学際情報学 府 教授 SCI-Japan 専務理事	出口 敦氏 越塚 登氏 南雲 岳彦	アーバンデザイン（都市環境・都市空間の設計）の第一人者で、東京大学スマートシティスクールの主催者である出口氏、都市OS・データ連携基盤の専門家である一般社団法人スマートシティ社会実装コンソーシアムの代表理事を務められる越塚氏をお招きし、都市経営人材育成のあり方について議論する。
23/10/5	木	B.先進事例の共有	B4	大学と連携したまちづくり	広島大学Town & GownOffice	金子 慎治氏	Town & Gown構想は、日本を地域から躍動させるため、本学と本学が立地する地域の自治体が持続可能な未来のビジョンを共有し、包括的、日常的、継続的、組織的な関係を構築の上、自治体の行政資源と本学の教育・研究資源を融合しながら活用することで、地域課題の解決に資する科学技術イノベーションの社会実装と人材育成のための地域共創の場の形成を通じて地方創生を実現し、持続的な地域の発展と大学の進化をともに目指す構想である。広島大学は2019年度から東広島市との間で東広島市・広島大学Town & Gown構想に着手し、民間企業 10社とともに広島大学スマートシティ共創コンソーシアムを立ち上げ、メインキャンパスである東広島キャンパスとその周辺においてスマートシティプロジェクトに取り組んでいる。本講義は、この取り組みの狙いや特徴、進捗や成果と今後の計画などについて紹介する。
23/10/12	木	F.プレミアムコンテンツ	F3	Well-Being論	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授	前野 隆司氏	Well-Beingの第一人者である前野氏が、Well-Beingとはなにか、地域におけるWell-Beingをどう捉えるべきか等について開設する。
23/10/18	水	A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A4	まちづくり共創デザイン論	JTQ株式会社代表 スペースコンポーザー	谷川 じゅんじ氏	前橋市や会津若松市などで各地のスマートシティに取り組んでいる谷川氏がまちづくり・空間プロデュースの実践事例とともに地域におけるウェルビーイング、サステナビリティの実現方法を解説。
23/10/24	火	C.市民対話の実践	C1	Well-Beingアンケート調査の実践講座	株式会社インテージ	伊藤 直哉氏	スマートシティの取組により地域住民のWell-Beingの向上が求められている。Well-Beingを測定する「LWC指標」を把握するには住民アンケートを実施する必要がある。自治体では市政モニターなどすぐに調査を依頼できる仕組みもあるが、Well-Being指標を適切に把握するためには、自治体の規模や特徴、住民の属性構成などに応じ、地域を代表する調査結果が得られるような調査設計を作ることが重要。本講座では、SCI-Jが実施している「Liveable Well-Being City 指標」の「LWC指標活用ガイドブック」や全国版調査の結果を参考に、具体的な事例を示しながら、Well-Beingを測定するアンケート調査の実践に向けたノウハウ・理解の取得を目的とする。

City-Region MAPプログラム(第2回)講座一覧 ～ 開講日程順 ～

講義時間は18:00～19:30、いずれもZoomによるオンライン授業（特に記載のない場合を除く）

開催日	曜日	カテゴリー	講座NO	【シリーズ名】講座名	講師（所属・役職・氏名）		講座概要
23/10/26	木	F.プレミアムコンテンツ	F4	人口減少社会のデザイン論 AIシミュレーションと都市・地域	京都大学人と社会の未来研究院 教授	広井 良典氏	日本の人口は2008年をピークに減少に転じ、現在の出生率が続けば2050年頃には1億人を切る事が予測されている。これは人口や経済が拡大を続けるという、明治以降100数十年にわたって続いてきた社会のあり方からの根本的な転換を意味する。こうした中で、人々の価値観や行動、東京と地方の関係、都市や地域、国土のあり方はどう変容していくのか。こうしたテーマについて、AIを活用して行った未来シミュレーションやウォークアブル・シティ、生態都市（エコジカル・シティ）、鎮守の森プロジェクト等幅広い視点から考え、今後のビジョンを構想。
23/11/1	水	B.先進事例の共有	B2	先進事例の共有 2（デジ田交付金タイプ2） デジタル・スマートシティ浜松の取組 ～国土縮図型都市・浜松の挑戦～	浜松市 デジタル・スマートシティ推進課長	瀧本 陽一氏	浜松市は、全国で2番目に広い市域を有する国土縮図型の政令指定都市です。 人口減少、少子高齢化が進む中で、デジタルを活用し、市民の幸福感溢れる持続可能なまちづくりを推進しており、令和4年7月には、デジタルを活用したまちづくり推進条例を制定しました。 当講座では、データ連携基盤を活用した地域の課題解決や活性化に向けた取組や、データ連携基盤が、デジタル時代の共創インフラとしてサービスレイヤーのスタートアップやNPO等にとり、より魅力的な環境となるような各種連携の取組をご紹介します。 また、官民共創によるWell-Being指標活用の取組や、Well-Being人材育成プログラム（OASIS）の実施、民間企業・団体による地域のWell-Being向上に向けた取組の顕彰（はままつWell-Beingアワード）などをご紹介します。
23/11/2	木	B.先進事例の共有	B1	先進事例の共有 1（デジ田交付金タイプ3） 前橋市のデジタルグリーンシティに向けた取組について	前橋市未来創造部未来政策課 スマートシティ推進係長	大矢 恵理氏	スロシティとデジタル技術を掛け合わせ、市民のウェルビーイング向上をめざす「デジタルグリーンシティ」に向け、デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプTYPE 3を活用して実施している「R4年度まえばし暮らしテック推進事業」「R5年度共助のまちづくり事業」の取り組み内容について。
23/11/14	火	F.プレミアムコンテンツ	F2	アーバンデザイン論	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	出口 敦氏	米国を発祥とするアーバンデザインの理念・目指すべき姿、さらには日本各地で展開されているUDC（アーバンデザインセンター）の取り組み事例等について解説する。
23/11/16	木	C.市民対話の実践	C3	【サービスデザイン・体験デザイン】 人間中心で考えるスマートシティサービスのデザイン ワークショップ運営の基礎	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任助教	山崎 真湖氏	スマートシティでは多様なステークホルダーが関わる中、人々の多様性を理解・考慮しながら、既存の枠にとらわれない発想で課題解決を進めていくことが求められる。ワークショップは、こうした状況に適した手法です。効果的に参加者の意見や関与を引き出しながら、効率的な解決策の発想を促すためのワークショップを、どのようにして設計し、実行するのか。参加者に創造性を発揮してもらうために、どのような問いかけをするとよいのか。市民とともに考えるスマートシティの実践的ノウハウをお伝えする。
23/11/22	水	F.プレミアムコンテンツ	F5	都市と空間コンピューティング：都市がエージェントになる世界	東京大学生産技術研究所 特任教授	豊田 啓介氏	LLMや画像生成AI、空間コンピューティングなど新しい概念や技術が次々に導入されています。これらの技術の現状と可能性、限界をひもときながら、新たに処理が可能になる多様な情報と我々の実生活とが交錯する場であり、それらを取得、処理し出力する複合デバイスでもある次世代都市の特性と構造、実装手法について、コモンラウンドという概念を軸に、離散化、流動化、多層化などの視点から、社会性や倫理、環境などの動きとも不可分になっていく流れを解説します。
23/11/29	水	A.スマートシティ戦略・リーダーシップ	A7	都市経営人材論 2	加古川市長 三浦法律事務所 弁護士 元 大津市長 SCI-Japan 専務理事	岡田 康裕氏 越 直美氏 南雲 岳彦	市長（元市長）としてまちづくり、都市経営を実践している（してきた）岡田氏、越氏をゲストにお招きし、都市経営人材に求められる資質や、実践のなかで得られた教訓・課題等について議論する。
23/12/2	土	C.市民対話の実践	C4-1	【サービスデザイン・体験デザイン】 人間中心で考えるスマートシティサービスのデザイン ワークショップ運営（実践）	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任助教	山崎 真湖氏他	※講義時間 13:00～17:00。2回のうち、どちらかを受講していただきます。 スマートシティサービスを構想するプロセスとその流れを、参加者によるグループワークを通じて体験。指標を用いてスマートシティの状況を捉えた上で市民のためのサービスを考える一連のワークを通じて、スマートシティの展開を進めていく活動のイメージを得る。より具体的には、LWC指標の概要とその活用法、人間中心のアプローチによるサービス体験の構想、利用者の行動データを取得しサービスの継続的改善を行う考え方を学ぶとともに、市民参加に用いられるワークショップの実例を体験。

City-Region MAPプログラム(第2回)講座一覧 ～ 開講日程順 ～

講義時間は18:00～19:30、いずれもZoomによるオンライン授業（特に記載のない場合を除く）

開催日	曜日	カテゴリー	講座NO	【シリーズ名】講座名	講師（所属・役職・氏名）	講座概要
23/12/6	水	F.プレミアムコンテンツ	F1	サーキュラー・循環経済論	ハーチ株式会社 代表取締役 加藤 佑氏	脱炭素の実現や生物多様性の保全・再生、経済・資源安全保障、ウェルビーイングの実現など、様々な観点から注目を集めている新たな経済・社会システム概念、「サーキュラーエコノミー（循環経済）」。本講座では、サーキュラーエコノミーとは何か、その概要や系譜、原則、最新の法規制・トレンド、国内および海外の都市・地域、企業における先進的な政策・実践事例、概念や実践（サーキュラーデザイン）をめぐる課題、脱炭素や生物多様性との関わり、サーキュラリティ測定、デジタルテクノロジーの活用やスマートシティとの関わりなど、サーキュラーエコノミーとまちづくりに関わるトピックについて幅広く学ぶ。後半は、参加者の皆様との対話・質疑応答を通じて様々な角度からサーキュラーエコノミーの本質や課題、可能性に関する理解を深める。
23/12/14	木	D.スマートシティとルール	D1	関連法令の理解 1 防災・減災のためのスマートシティ（法的論点の整理）	TMI総合法律事務所 弁護士 尾形和哉弁護士、波多江崇弁護士、齋藤駿介弁護士	まちの防災・減災を目的としたデータ連携基盤の整備やスマートシティ化は、東南海大地震等への備えの観点からも重要な課題です。この課題に取り組むにあたり、地方自治体やサービスを提供する企業等が留意すべき法的規制や法的責任について解説します。増水状況の定点観測、位置情報を利用した安否確認や避難誘導、AIを活用した避難誘導、ドローンによる捜索や避難物資の配送、避難所における顔認証の活用、避難時のカルテ情報の活用など具体的な想定事例に基づいて法的論点を整理します。
23/12/16	土	C.市民対話の実践	C4-2	【サービスデザイン・体験デザイン】 人間中心で考えるスマートシティサービスのデザイン ワークショップ運営（実践）	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任助教 山崎 真湖氏他	※講義時間 13:00～17:00。2回のうち、どちらかを受講していただきます。 スマートシティサービスを構想するプロセスとその流れを、参加者によるグループワークを通じて体験。指標を用いてスマートシティの状況を捉えた上で市民のためのサービスを考える一連のワークを通じて、スマートシティの展開を進めていく活動のイメージを得る。より具体的には、LWC指標の概要とその活用法、人間中心のアプローチによるサービス体験の構想、利用者の行動データを取得しサービスの継続的改善を行う考え方を学ぶとともに、市民参加に用いられるワークショップの実例を体験。
23/12/20	水	E.都市OS/データ連携基盤	E1	スマートシティのサービスを支える都市OS・データ連携基盤のつくりかた・つかいかた-1	一般社団法人スマートシティ社会実装コンソーシアム コミュニティマネージャー 土屋 俊博氏	スマートシティを作る際には、「都市OS」「データ連携基盤」といったものが必要だと言われている。これらがスマートシティの構築においてどのような意味を持ち、どのような発想で生まれたのか、その背景や思想、これまで国内を中心とした関連項目について知るとともに、参加者同士で課題認識や興味関心について語り合う。また、今後の各地域におけるスマートシティ構築における都市OS・データ連携基盤の構築の進め方や、具体的なサービスの作り方等について考える。
24/1/10	水	D.スマートシティとルール	D2	関連法令の理解 2 MaaS及び自動運転導入のための法制度・法規制	TMI総合法律事務所 弁護士 岩田幸剛弁護士、小林真佐志弁護士、三浦大典弁護士	近年、自動運転の実用化・普及に向けた技術開発が着々と進み、またMaaSについても全国各地で、まちづくりと一体化した導入事例が増え、近い将来、新たなモビリティの形として実用化・普及し、移動の概念を大きく変革することが予測されています。変革は、新ビジネスのチャンスにもなりますが、新たな技術・アイデアをビジネスとして立ち上げ、運用するためには、関連する法規制・法制度の十分な理解が不可欠となります。 本セミナーでは、多くの自動運転、MaaS支援に携わった弁護士の経験を通じた幅広い知見に基づき、自動運転、MaaSに関する法規制・法制度について、最新の状況を踏まえながら解説いたします。
24/1/18	木	B.先進事例の共有	B3	先進事例の共有 3（スーパーシティ） つくばスーパーサイエンスシティ構想について	つくば市 スマートシティ戦略監 中山 秀之氏	茨城県つくば市は、筑波山をはじめとする恵み豊かな自然や、最先端の科学技術を有する研究機関等が集積するまちで、過去30年間人口規模が拡大し続ける一方で、周辺地区の高齢化、自家用車類みの移動、インフラの老朽化など、様々な問題も抱えている。 これらの問題に対し、先端的サービス、規制改革及びデータ連携を駆使し、大学・研究機関、企業、住民とともに解決し、誰一人取り残さない社会を実現することを目指し、「つくばスーパーサイエンスシティ構想～科学で新たな選択肢を、人々に多様な幸せを～」を掲げ、スーパーシティ型国家戦略特別区域に指定された。今回は、サイエンスシティからスーパーサイエンスシティへのアップデートを目指す未来都市の現在、そして今後の取組についてご紹介する。
24/1/24	水	E.都市OS/データ連携基盤	E2	スマートシティのサービスを支える都市OS・データ連携基盤のつくりかた・つかいかた-2	一般社団法人スマートシティ社会実装コンソーシアム コミュニティマネージャー 土屋 俊博氏	スマートシティを作る際には、「都市OS」「データ連携基盤」といったものが必要だと言われている。これらがスマートシティの構築においてどのような意味を持ち、どのような発想で生まれたのか、その背景や思想、これまで国内を中心とした関連項目について知るとともに、参加者同士で課題認識や興味関心について語り合う。また、今後の各地域におけるスマートシティ構築における都市OS・データ連携基盤の構築の進め方や、具体的なサービスの作り方等について考える。
24/2/27	火	修了式		修了式&懇親会付（ハイブリッド開催）	SCI-Japan 専務理事 南雲 岳彦	15:00～19:30 修了式および懇親会 都内会場とオンラインのハイブリッド開催